

第3回平成24年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会会議録

平成23年7月13日（水）14時00分～

委員長

皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。

会議の開会に先立ちまして、傍聴の皆様にお願いがございます。傍聴の皆様には、「藤沢市教科用図書採択審議委員会の傍聴要領」に従い、傍聴くださることをお願いいたします。

なお、この会議は公開でございます。審議の内容につきましては、会議録作成の都合上、録音させていただきます。

それでは、藤沢市教科用図書採択審議委員会規則第5条2項の規定にあります、委員の半数以上の出席の要件を満たしておりますので、ただいまより第3回平成24年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を開催いたします。

今回ご審議いただく内容は、議案1「平成24年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」、議案2「平成24年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果の答申について」の2点でございます。

それでは、本日の資料について事務局より説明させます。事務局、お願いいたします。

事務局

それでは、本日の資料についてご説明いたします。

まず、「平成24年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書調査書まとめ」です。これは平成24年度使用特別支援学校及び小学校もしくは中学校の特別支援学級用教科用図書調査書をもとに事務局でまとめたものです。

次に、横のテーブルをごらんください。こちらには、平成24年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書と特別支援教育関係教科用図書見本が展示してあります。平成24年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書は、特別支援学級設置学校長及び特別支援学校長が自校の教師に調査研究させたものを簿冊としたものです。

以上で資料の説明を終わります。

委員長

ありがとうございます。

ただいま資料について事務局から説明がありましたが、委員の皆様、資料について何かご質問ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、質問がないということですので議事に入りたいと思います。

本日の次第をごらんください。まず初めに、藤沢市審議会等の会議の公開に関する要綱に基づきまして、会議録署名委員を指名いたします。まず

私と、ほかに海保委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

海保委員 はい、結構です。

委員長 ありがとうございます。では、よろしくお願ひいたします。

では、議案1「平成24年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」審議していきたいと思ひます。

まず、事務局より資料について説明をさせます。事務局、お願ひいたします。

事務局 資料を説明させていただく前に、第1回審議委員会から本日までの調査研究の流れについて、まず説明をいたします。

今回ご審議いただく教科用図書は、学校教育法附則第9条に規定された教科用図書です。特別支援教育に関する教科書については、児童生徒の実態に合った一般図書を充ててもよいとされているものでございます。現在、全国の義務教育諸学校で教科書として使用しております一般図書のうち、比較的採択数の多いもので、かつ発行者が平成24年度においても引き続き当該図書の発行供給を予定しているものを文部科学省初等中等教育局教科書課がまとめました平成24年度用一般図書一覧というものがございます。これにつきましては、第1回審議委員会の際に皆様にはお配りさせていただきました。

この一覧に載っている図書すべてを展示いたしました教科用図書研究会が5月9日から13日まで県立総合教育センター善行庁舎で開催されました。この研究会におきまして、白浜養護学校と特別支援学級の先生方が実際に展示されている図書を見ながら、在籍する児童生徒の実態や次年度入学する児童生徒を想定いたしまして調査研究を行ってまいりました。その結果、平成24年度使用に適すると思われる一般図書についての報告として教科用図書調査書が提出されております。

それでは、資料をご説明させていただきます。「平成24年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書調査書まとめ」をごらんください。

こちらの1ページをお開きください。一覧表の一番上のところをごらんください。この一覧表は附則第9条による図書を5つに分けて表記してあります。

まず1つ目は、「新」の文字を記載したものでございます。これは今回新たに調査研究をした結果、教科書としてふさわしいとして出された新規の図書でございます。2つ目は、□の記号を記載したものでございますが、これは昨年度採択された図書で、本年度の調査研究の結果、複数の種目において教科書としてふさわしいとされた図書でございます。3つ目

は、○の記号を記載したものでございます。これは平成24年度用一般図書一覧で不掲載になったものですが、藤沢市としましては継続希望したいということで挙がっている図書でございますが、今年度につきましてはこちらは1冊もございません。4つ目は、●の印でございます。これは平成24年度用一般図書一覧で不掲載となった図書で、今年度継続希望のない図書でございます。最後に5つ目は、無印のものでございます。これは昨年度採択され、本年度も教科書としてふさわしいと調査された図書です。

なお、14ページから16ページに新規図書と複数種目で希望のあった図書を一覧表にして資料1としてお示しさせていただきましたので、こちらも参考になさってください。

続きまして、12ページをごらんください。一覧表最後の「No.9 英語」の欄の下のところでございますが、今お話をいたしました一般図書のほかに平成24年度用小学校用教科用図書、平成24年度用中学校用教科用図書、特別支援学校小・中学部用文部科学省著作教科用図書がございます。なお、特別支援学校小・中学部用文部科学省著作教科用図書につきましては、資料2としまして17ページから18ページにお示ししました。これは第1回の審議委員会で資料として「特別支援学校用（小中学部）教科書目録（平成24年度使用）」をお渡しいたしました。この中で知的障がい者用として挙げている図書でございます。この本はいわゆる☆印本と呼ばれているものでございます。

それから、一般図書を採択希望する場合の留意事項につきまして、19ページに資料3として記載させていただきました。

以上で資料の説明を終わります。

委員長

ただいま事務局から資料についての説明がございました。委員の皆様、何か資料に関してご質問ございますでしょうか。ありませんか。

それでは、質問がないようですので議事に入っていきたいと思っております。

今言いましたように、新規の図書については、本審議委員会が初めての審議する場になっておりますので、慎重な審議をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

それでは、これから審議してまいりたいと思っておりますが、委員の皆さん、審議の進行について何かご意見等ありますでしょうか。湯原委員。

湯原委員

今回新たに調査研究をした結果、教科書としてふさわしいものとして新規図書がたくさん出されております。児童生徒の実態もさまざまであり、一般図書を教科書として使うニーズもふえてきていると感じております。本校の調査を見ましても、児童生徒の実態を踏まえて精査しておりますので、幅広く決めていく必要があるのではないかと考えております。

以上です。

委員長 ありがとうございます。
そのほかにご意見等ありますでしょうか。入澤委員、お願いいたします。

入澤委員 附則第9条関係の審議については、昨年もこの審議委員会で進行についての意見が出ていたと思うのですが、特別支援学校や特別支援学級で使用される教科書については、児童生徒の特徴や発達段階は本当にさまざまですので、それに基づいて決めていく必要があるかなと私は考えています。先ほど湯原委員もおっしゃっていましたが、附則第9条によると、教科書として使用できる本については、そういうふうに児童生徒の発達段階に応じて学校が日常の活動の中で精査して挙げてきた本だと考えますので、私もできるだけ採択の幅を広く用意してあげることがいいのではないかなと思っています。

委員長 ありがとうございます。
そのほかにご意見ありますでしょうか。岩城委員、お願いします。

岩城委員 今2人の委員が言われましたけれども、私も同感です。1つの本に1つの教科ということではなくて複数の教科というような話も出ておりますけれども、複数の教科で使いたいという希望についても、子どもの実態によっては別の教科で使うということも十分考えられると思いますので、ぜひ複数教科でも教科書として使用できるという方向でいきたいなと私も思っております。

委員長 そのほかにかがででしょうか。
では、今3人の委員からご意見がありました。各学校から希望が出ているものについては教科書として使用できる方向で考えたいというご意見だと思いますけれども、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 それでは、ただいまのご意見を受けまして、これからの審議の進行については、新規の図書と複数の種目で希望が挙げられている図書についてだけ審議していくということによろしいでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 わかりました。では、そうさせていただきます。
それでは、新規図書や複数種目で希望がある図書についてですけれど

も、No. 1 の国語・書写、No. 2 の算数・数学、No. 3 の生活・地図・社会、No. 4 の生活・理科、No. 5 の音楽・器楽、No. 6 の図工・美術、No. 7 の家庭・職業家庭、No. 9 の英語に入っております。これをまとめて審議してよろしいでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 それでは、新規図書や複数種目で希望が出ている図書についてご意見を委員の皆様から伺っていきたくと思います。よろしくお願ひいたします。新屋敷委員、お願ひいたします。

新屋敷委員 私は、この調査書まとめの5ページにありますNo. 3、生活・地図・社会で新規に2冊本が挙がっていますがけれども、最初のジュラ出版局の「プータンどこいくの?」、それからもう一つが成美堂の「調べ学習に役立つ 世界の地図」についてお話ししたいと思ひます。

初めに、ジュラ出版局の「プータンどこいくの?」という本です。この本は幾つか特徴がありました。その一つは、本におもちゃのタイヤのようなものが2つついているのです。これがうまくできていて、自分の手でくるくる回せるのです。それから、片方のタイヤを回すと片方も連動して回るようにつくられていました。タイヤを回すときに適度な抵抗感があったり、それから、回すときにギーッと音が出るのです。こんなことが非常に五感を通して子どもにとっては小気味がいいつくりになっているなと思ひます。

ストーリー自身は、子豚のプータンという主人公が、おじいちゃんからもらった赤いおもちゃの自動車みたいなものに乗って、おじいちゃんの家に行くんだみたいな、それでたどり着くところまでのお話なのですが、教材としていいなというのは、今お話ししたように五感を通して子どもがいろいろ見られるなということなのです。

五感といいますと、このストーリー仕立ても、いろいろな色の車が出てくるということもいいなと思ひました。初めは、おじいちゃんからもらったのは、赤いペダルで走る、おもちゃといっても自分で乗れる遊具のような自動車です。順に紹介すると、パトカーが出てきたり、はしご車が出てきたり、黄色い自家用車のようなものが出てきたり、ブルーのワゴン車、緑色のトラック、ショベルカー、トラクターというぐあいに出てきます。

この本がさらによいのは、社会的な事象を切り取っているなと思ひます。赤い遊具の子ども用自動車は宅配便が届けてきました。宅配便ということ自体は家庭でも多分なじみになっていると思ひます。ただ、ふだん知っている部分と、学習によって見えない世界を見通す教材にも発展していく可能性があるなと思ひます。見えているのは、自分の家に来た宅配便のおじさんとかそういうことになると思ひます。その向こうにどういふも

のがあるかなという広がりにも、教材次第で、その子どもの実態に応じて、やろうと思ったらできるかなと思います。

パトカーとかはしご車、そして、先ほど紹介しましたブルーのワゴン車はクリーニング屋さんの車です。それから、トラック、ショベルカー、トラクターといえ、もうわかっていますように社会的に機能を持った、役割を持った車であります。こうした表面上見えている、子どもにとって見える世界といいますか、森羅万象から見えない世界を見通すということが社会科としても大事なかなと、思っているところです。そういう意味で柔軟に対応できるかなと。子どもの実態に応じて深められるし、実態に応じては見えている世界のとおり認識を深めさせることもできるかなと思います。

ちなみに、このタイヤは各ページがくりぬきになって上がるようになっていまして、全部に共通するタイヤになっているわけです。そういう意味で、よい教材だなと思いました。

次に、2冊目の成美堂の「調べ学習に役立つ 世界の地図」についてです。これは同じように「日本の地図」というのもあるようですが、この本は、その副題に「見て、読んで、考える」と書いてあります。実際にあけてみると、そのとおりになっているなと思います。写真、絵、イラストが豊富です。各世界の地域をイメージしやすくなっています。編集上の構成ですけれども、最初に目次よりも前の見開きに「世界の気候とくらし」というコーナーがあります。いろいろな地理的な特徴を持つ地球上でいろいろな場に応じて、季節とか地理的な条件に応じて人が営みを持って暮らしているわけですが、その風土に適するような形で人々が生活をしている、知恵を持って生活しているのだということがわしづかみできるように、民族衣装であったり、さまざま特徴ある民族の家であったりなどが紹介されています。こうした絵、写真、イラストと世界の気候図等を視覚的に見て興味をわいたところで、そのことの意味が文で解説され、書いてあるというぐあいになっています。

見開きの次に目次が視覚的にわかりやすく紹介されていますし、本の見方などの説明も記載されていました。目次的に編集上の構成をお伝えすると、「国と国とのつながり」、「時差と標準時」、「宇宙から見た世界のようす」、「世界全図」、「世界地図の図法」、「各地域」、「世界の農業」、「世界の林業と漁業」、「世界の工業」、「世界の資源とエネルギー」、「世界国別データ」、「地名索引」、「世界の言葉でありがとう」というぐあいに並んでいます。各地域では、視覚から見るページが地形と国別の両方の地図が載っています。どこどこ地域を知るページというふうになっていまして、歴史とか国とか地域の特徴が具体的に文章で、興味を持ったならこの説明文を読めるようになっていっているという仕掛けになっています。先ほども副題ということで説明しましたが、見て、読んで、考えるように設計してあるなど、すばらしい展開ができそうだなと思

いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ただいまのは、No.3の生活・地図・社会の中から2冊についてご意見をいただきました。
そのほかにありますでしょうか。入澤委員、お願いします。

入澤委員 私は、算数・数学が中心になるかと思うのですけれども、幾つかの本について感じたことを述べたいと思います。

まず、算数・数学ですけれども、くもんの本がやはりたくさん取り上げられていまして、今まで既に採択されたことがあるものも、あるいは新規に今回挙がってきたものも、国語や英語などほかの教科についてもですけれども、かなりたくさんくもんの本が取り上げられています。これは、くもんの本が何より体系的にしっかり整えられているということがあるのだらうなと思います。子どもの知的な発達の体系ですとか段階を踏まえて編集されているので、安心して教科書として使えるということがあるのかなと思います。

必ずしも順番で使っていくわけではないのですけれども、子どもの実態によって使っていくにしても、体系の中にきちんと位置づいているという安心感が先生方の中にあるのかなと思います。特にドリル類に関しては、繰り返し練習するために問題量も多く用意されているので、使いやすいのかなと感じています。

それから、算数・数学の最初のところに出ている偕成社の「100かいだてのいえ」ですけれども、これは数に興味を持ち始めた子どもに対しては本当にいい教科書になるだらうなと思う絵本です。1階から100階まで順番に階段を上りながら、それぞれの階に暮らす動物の生活をのぞいていくというもので、最後は一番上まで行って、エレベーターでひゅうっと下までおりるという構成なのですけれども、興味を引き起こしながら数の勉強を行うことのできる本だらうと思っています。

それから、構成の中で、1階から10階にネズミがいて、11階から20階はリスで、21階から30階がカエルというふうに10階ごとに動物が変わっているので、この先発展的に10のまとまりというところの意識を持たせるためにも非常にいい本だなと思われました。

それからもう一つ、資料の4ページですけれども、東洋館の「くらしに役立つ数学」というのがあります。これは4年前ぐらいに編集された本だと思うのですけれども、とてもよくつくられているなと感じました。これは実は現場の先生方が日常の教育実践に基づいてつくった教科書なのです。ですから、非常に上手に内容が編集されているという感じです。国語や社会にも実はこのシリーズのものがあるのですけれども、数学の特徴は、基礎編と生活編に分かれていまして、特に生活編では、実際の体験学

習にそのまま使えるような課題設定がされています。例えばデパートに行ったときを想定して、買い物の手順どおりに用意されていて、それを追っていくことによって実際的な数の学習ができるという編集がされているところです。ほかの教科についてもぜひ活用されるといいなと感じるいい教科書だと思います。

最後に、複数の教科で挙がってきているものについてお話をさせていただければと思います。例えば、生活・地図・社会にある金の星社の「ひとりのできるもん」の4と10ですけれども、これは内容が、御飯やパンの調理ですとか、あるいはお菓子づくりという内容ですので、生活の中で使うことも、当然調理というようなところでも使えるわけで、家庭・職業家庭のほうでも教科書として挙がっています。生活習慣として食事ですとかおやつの学習をするための教科書としても、あるいは実際に調理をして学習、経験するための教科書としても適しているだろうと思います。

同様に、音楽・器楽と図工・美術で挙がっている、あかね書房の「あかねえほんシリーズ えほんえかきうた」というのがあるのですけれども、歌を歌うことを中心に学習する場合には音楽・器楽の教科書として使えますし、絵を描くことを中心に学習する場合には図工・美術の教科書として使えるというふうに、恐らくそれぞれの学校、学級が学習計画と結びつけて希望してきたものだろうなと感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。算数・数学を中心にいろいろな種目からのご意見をいただきました。
そのほかにいかがでしょうか。湯原委員。

湯原委員 私は、今年度、複数の種目で希望が挙がった図書の中からお話ししたいと思います。

初めに音楽・器楽についてですけれども、今、入澤委員からも話がありましたけれども、あかね書房の「えほんえかきうた」についてです。これは、作者であるやなせたかしの絵が、子どもたちにとってつい読みたくなるようなキャラクターになっておりまして、児童生徒が興味を持ちながら学習できるようになっていると感じました。また、歌いながら絵をかくことにより、言葉と形が一体となって理解できるように工夫されているようにも思いました。それから、歌に合わせて身体表現をすることにより、形の弁別だとか数の概念が自然に身につくように編集されているのもいいなと思いました。

それから次に、家庭・職業家庭については、ひかりのくにの「たべものひゃっか」についてですけれども、肉や野菜などの食材を中心にしながら食べ物に興味を持てるように構成されているように思います。そして、特に写真とか図が大変きれいで見やすく、しかも、写真の撮り方が、あたか

も目の前に食材や調理されたものがあるように工夫されており、児童生徒にとっては思わず食べたくなるのではないかと感じました。

また、各コーナーには、クイズ形式で楽しく学習しながら知識が身につくように工夫されているのもいいなと思いました。それから、多くの単語だとか身近なものの名前がたくさん掲載されているので、そういった点からも、家庭科の授業に限らずいろいろなことに使えるのではないかと感じました。

以上です。

委員長 今、音楽・器楽、それと家庭・職業家庭の2つのカテゴリの中からご意見をいただきました。

そのほかにいかがでしょうか。井田委員、お願いします。

井田委員 私は、図工・美術についてですけれども、本校の生徒の様子を見てみますと、先ほど各委員からも話が出ましたけれども、手先が非常に器用な子どもとかそうでない子ども、さまざまな子どもがおります。また、色に対して敏感な子どももおりますし、作業が非常に好きだという子どももおります。今回、教科書としてふさわしいとして出ています新規図書のポプラ社「ぼくのいろなあに」と学研マーケティングの「あそびのおうさまBOOK」は、本校の子どもたちが非常に興味を持ちやすい本だと感じましたので、それについてお話をさせていただきます。

まず、ポプラ社の「ぼくのいろなあに」という本は、全体的に非常にカラフルな色遣いで、夢があふれて楽しい気分が伝わってくる本だなと感じました。中身は、双子の子グマがカラフルな洋服を着がえていくことで、色の名前や洋服の名前なども一緒に覚えることができる。内容もストーリー仕立てになっているところがわかりやすいと感じました。また、色彩表現なども、海と同じ色の青い靴下というふうに説明が非常にわかりやすいと感じました。そして、最後のページに子グマが着た洋服がすべて一覧で載っているので、指さしの確認、クイズなどで使えるのではないかなと感じました。

次に、学研マーケティングの「あそびのおうさまBOOK はじめてきるほん」という絵本については、本自体が、ああしなさい、こうしなさいという指示がほとんどなくて、お手本もない本です。ですから、浮かんだイメージをどう表現するかということなので、指導の工夫が非常に生まれやすい本ではないかなと思いました。子どもが本来持っている好奇心を刺激するという意味では大変よい本だと感じました。また、本自体が、はさみを使って切ることもできるし、自分の手で切ることもできるようになっているので、手先の訓練という意味では、これも指導しやすいのではないかなと感じました。

そして、これはおまけのような形で、巻末にのりを張るボードとかお片

づけ袋がついているので、これも本として非常に工夫されているのではないかなと感じました。

以上です。

委員長 そのほかにいかがでしょうか。十川委員、お願いします。

十川委員 私は、国語科の立場として意見を述べさせていただきます。

私たちが言語を習得していく過程を考えますと、視覚的なものとの結びつきが非常に大きいと思います。No.1の国語・書写にあります偕成社の「言葉図鑑」は、それぞれの言葉に絵をつけて、言葉が心にすっと入るようにしています。「言葉図鑑4」は「かざることば」になりますが、形容詞や形容動詞の難しい言い回しを非常にユーモアあふれる絵で楽しく紹介しています。例えば「いびつな」ですとか「奇妙な」とかいうわかりにくい言葉も、この作者の手にかかれば楽しくなってきます。この言葉はこういう場面で使うのかとか、言葉の数だけ絵によってストーリーが生まれるわけです。子どもたちの世界が広がるなど感じました。

もう一つ、福音館書店の「おおきなかぶ」ですが、これはたしか小学校1年生の教科書でも取り上げられていると思います。何度読んでも、そして大人が読んでも楽しい本です。この本は子どもたちの想像力を駆り立てます。次はだれを呼んでくるのか、カブは抜けるのか、本をめくる楽しみを生徒たちは知ることになります。

今回各校から示された本は、どれも子どもの発達段階に応じて使用することができるなど感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

そのほかにいかがでしょうか。菅委員、お願いします。

菅委員 私のほうは、本校では、一緒に授業をするにしても、一人ひとりの対応を変えながら担当が指導に当たっています。そんな子どもたち一人ひとりに合う図書を考えると、本を見たときにぐっと引き込まれる、関心を高めていくための身近にあるものを紹介する図鑑が必要と考えます。そこから話をさせていただきます。

生活・理科に、学研マーケティングの「ニューワイド学研の図鑑 増補改訂版」があります。その中の飼育と観察、魚、昆虫図鑑は、その点を満たしていると思います。昆虫や小さな動物が水槽で飼育される写真があり、生徒に身近な表現になっています。魚に関心があれば、さらにどんなものがあるか、多くの魚が載っていて興味を深めていきます。

同じく学研マーケティングの「あそびのおうさまずかん2 むし」も、身近にいる虫が実物大で表現されています。見た瞬間、子どもたちに、お

むしろ、好奇心が深まるのではないかと思います。

動物を見ると、今度は同じく食べ物で見ますと、家庭・職業家庭にありますひかりのくにの「新装版K I D S 2 1 たべものひゃっか」は、生活の中の肉や野菜など食べ物に関心が持てるようになっており、生活の関連でいくとおもしろいのではないかと思います。

さらに、生活・地図・社会の中にありますくもん出版の「生活図鑑カード たべものカード」は、日常生活に身近な食べ物を通して言葉への関心を高めていくので、よいかと思います。それだけで使うのもいいですが、これらを一緒に使うことで一人ひとりの子どもたちの関心を高めるのもよいと思います。

同じような観点で見ていきますと、図工・美術にあります学研マーケティングの「はっけんずかん のりもの」はよいと思います。あけた瞬間、乗り物が飛び出す。あけたときに扉があり、それを開くとまた次のも見ることができる。やはり子どもたちは車に関心がありますから、日常生活の中で子どもたちの好奇心をさらに深めていくのにはよい図書ではないかと思います。

最後に、身の回りの本当に身近なこととして、生活・理科にあります三省堂の「こどもきせつのぎょうじ絵じてん増補新装版」は、1月から12月までの1年の流れを優しい絵を使いながら、季節ごとの行事について由来や歴史がイラストでわかりやすく説明されていて、子どもたちの関心を高めることができると思います。季節の感覚は大事なことで、1カ月ごとの季節の流れを感じながら学ぶのはいいのではないかと思います。

以上です。

委員長 ありがとうございます。生活・理科を中心に、図工・美術、生活・地図・社会の中から、さまざまな角度からご意見をいただきました。そのほかにいかがでしょうか。都築委員、どうぞ。

都築委員 では、保護者ですので、いつも子どもを見ている立場からになりますけれども、何点か見させていただいて思ったことがありますので、言わせていただきます。科目をまたいでも構いませんか。

委員長 そのままお話しただければ結構ですので。

都築委員 もう何点か、先生方が言っていたものとかかなりかぶるのですけれども、申し上げます。

No.1の国語の「おおきなかぶ」ですけれども、私も読んだなというような昔ながらの絵本でした。ですけれども、子どもたちは小さいころ、幼稚園のころからこの絵本を歌つきで、あと手遊び、お芝居のような遊びをずっとやってきている子どもが多いと思います。かなり親しんでいるお話だ

と思いますので、本への導入というか、本の世界に入っていく初めての本の
のような形としてもとてもいい本ではないかなと思いました。

続いてまた絵本で、その次にある「おふろだいすき」ですけれども、水
遊びとかおふろが大好きという子どもがとても多いのではないかなと思
います。これも興味を引くかなと思ひまして、とてもいいなと思ひました。
あと、これは育てている実感なのですけれども、水はとても好きなのです
けれども、実はおふろで自分の体を洗うとかシャワーを浴びるというこ
とがとても難しく、身につけにくいのです。こういう絵本で見て、自分で
読める子どもも、読んでもらう子どももいると思うのですけれども、そう
いった場面をふやして、ちょっとしたところが本人が自立に向けてできる
ようなきっかけになるのではないかなと思ひて、とてもいいなと思ひまし
た。

次に、No. 2 の算数ですけれども、「マークのずかん」がありました。マ
ークですとかロゴが好きな子どもがとても多いなと思ひます。うちの子
どももそうなのですけれども、言葉を話せなかつたり字や絵をかけない子
どもにとって、マークというのはとても便利で必要なものなので、身近にあ
って覚えていけたらとてもいいなと思ひます。この本の中に、トイレです
とか立入禁止ですとか会計のマークがわかりやすく載っていたので、それ
も覚えていけたらいいマークではないかなと思ひまして、とてもいいな
と思ひました。

あと、No. 3 の生活・地図・社会で「ひとりでできるもん」の4と10、
あと「つくるたのしみ あそびのレシピ」という本がありまして、入澤先
生もおっしゃっていましたけれども、料理のつくり方、工作の仕方がイラ
ストと字で示されているので、とてもわかりやすく興味を持てるのでは
ないかなと思ひました。親ですので、学校を卒業してからのことも考えてし
まうのですけれども、手順書というか、マニュアルを見ながら何かをつ
くるということを学校に行っている間にたくさん経験して、できるようにな
っているといいなと、ぜひ身につけさせたいと思ひますので、こういった
本を使って何かをつくっていくという授業をぜひお願いできたらなと思
ひます。

あと、No. 4 の生活・理科の「たべものひゃっか」は、先ほども先生がお
っしゃっていましたけれども、身近な食べ物がたくさん載っていて、と
ても興味を引くと思ひます。話すことができない子でも、指さしをして相手
に伝えるですとか、コミュニケーションの助けにもなるかなと思ひます。
あと、写真の下にミカンならミカンというふうに書いてありましたけれど
も、字が読めない子どもにとって、字は一固まりのマークとして覚えるこ
とがとても多くて、そういった覚え方をしていって身につけていくことも
意外と多いので、こういったものを使っていただけるといいのかなと思
ひました。

あと、「学研の図鑑」の魚ですとかいろいろ載っていましたけれども、

これもとても興味を引くのではないかなと思います。これは親の反省も込めてなのですからけれども、往々にして年齢よりかなり下の幼児用の本を渡してしまうようなことが多いのですけれども、見ていると意外と年相応だったり、そういったもののほうが手が伸びて気に入っていることも多いなと思います。こういった本も手元にあると、とても興味を持って、意外なところで興味が広がっていくのではないかなと思いました。

最後にNo.5の音楽です。「えほんえかきうた」がありました。歌はとても好きですし、楽しみながら練習ができるのではないかなと思いました。丸とか線をかくような基本的な練習が多かったのもよかったなと思いましたが、かく練習をするときに意外と難しいなと思うのが、物をかいて、最後にとめますよね。そのとめるという行為がとても難しいように見えて思うので、歌を歌いながら、歌を聞きながら線をかくと、とめるということが意外と覚えられるのではないかなと思いました。

以上です。

委員長

ありがとうございます。保護者の立場、母親の立場から、幾つかの種目の中からの貴重なご意見、どうもありがとうございました。そのほかにありますでしょうか。岩城委員、お願いします。

岩城委員

先ほど入澤委員からも話がありましたけれども、くもん出版ですが、この出版社からはいろいろな種類のドリルが出ています。国語の漢字とか、あるいは言葉の決まり関係、それから算数の計算関係とか、英語でもドリルのような形で出ておりますけれども、どの分野も基本的に子どもたちの発達段階に合わせて、なおかつスモールステップで学習していけるようになっているなと思います。繰り返し学習ができたりして何回も取り組める、あるいは同じようなパターンを繰り返すことによって覚えていくという形で、非常に子どもたちに合わせているなと感じました。うちの学校の特別支援学級の子どもの様子も見ていて、その学習なども見ていて思ったのですけれども、そういう形での学習は、子どもたち一人一人に合わせた学習の理解に非常に役立っているなと思いました。

今回の本の中で、国語ですけれども、「かんじ集中がくしゅう」（「漢字集中学習」）というのがあります。ほとんどの漢字ドリルが学年別でつくられていて、教科書の順番に漢字が出てくることが多いのですけれども、このドリルは、形だとか読みとか意味というふうに仲間分けをしたグループで学習するようになっています。へんとかつくりとか、いろいろありますね。例えばにんべんだったら、その学年で学ぶその種類の漢字ばかりを集めて続けて練習、学習するということで、子どもたちは、次から次にいろいろな形のことを覚えるのではなくて、1つの形を覚えて、その学年で出てくる同じような漢字を練習するというので、非常に覚えやす

い。1つの形、にんべんだったらにんべんがずっと出てくるということで、非常に覚えやすいということで、いいなと思いました。

ご家庭、保護者のほうも、こういうドリルで復習をして、忘れたらまた戻って、自分でまた取り組めるということで、非常に好評だなと思いました。

最初にも話をしましたけれども、今は1つの本で紹介しましたけれども、どの教科のドリルも一人一人の子どもたちの状況に合わせて使うことができるということで、とてもいいなと思いました。

以上です。

委員長

ありがとうございました。

そのほかにいかがでしょうか。松永委員、お願いします。

松永委員

英語です。英語は、くもん1者のみで6つの新規図書すべてが「CD付き英語カード」です。私はこれを見て、CD教材というのはさまざまな面でとても効果的だなと感じました。英語を学習する一つの手法としてチャンツという指導方法があるのですが、このチャンツというのは、一定のリズムに乗せて英単語や文を歌のように、そして楽しく自然に覚えていくという方法です。このCDがあれば、子どもが自分で学習することも夢ではない、そのように感じました。チャイムが鳴ったら生徒が自分から席に着いてCDを取り出して英語を話している、そういう自学自習する生徒の姿が市内の特別支援学級、また白浜で見ることができれば、これは本当にすばらしいなと感じました。

そして、この「英語カード」の中身ですが、扱っている内容は、学習指導要領にある考えや意図を伝える「Let me try」、そして気持ちを伝える「Please help me」、そういうのを取り扱っています。とても適切であるなと思っています。そして、すべてのカードを教える必要はなくて、生徒の実態や学習状況に合わせてカードを選択できるようになっていますので、個々のニーズに応じたきめ細やかな学習支援ができると感じました。

以上です。

委員長

そのほかに何かご意見ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、意見がほかにないということですので、議案1「平成24年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」の審議は、ここまでとしたいと思います。

引き続き、議案2「平成24年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果の答申について」の審議を行いたいと思います。

平成24年度使用中学校用教科用図書並びに平成24年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書の答申につきまして、委員の皆様、何かご意見ございますでしょうか。井田委員。

井田委員 議題の答申についてですけれども、教育委員長からの諮問に、各調査の観点や調査研究の観点に基づき審議し、その内容を答申するとありました。私も自分が調査研究をする際には、県の調査の観点に沿って調査研究を行いました。そして、第2回の審議委員会の中では、藤沢市の調査資料の項目も意識して意見を述べましたけれども、観点や項目に沿った意見だけではなかったように感じております。また、今回の審議においても、附則第9条による一般図書について、その本を必要とする児童生徒にふさわしい教科書について意見を述べました。答申として正確に審議内容を伝えるためには、審議委員会の会議録を答申に充てるというのはいかがでしょうか。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

そのほかにこの件につきましていかがですか。渡邊委員。

渡邊委員 私も、今、井田委員がお話ししたように、県で示された観点にのっとって各種目の調査研究をして、第2回の審議委員会で意見を述べさせていただきました。答申として新たにまとめるとなると微妙なニュアンスが伝わらないように思いますので、会議録をもって答申とするのが私もよいと思います。

以上でございます。

委員長 ありがとうございます。

そのほかにこの件についてご意見ございますでしょうか。神戸委員、お願いします。

神戸委員 私も、会議録をもつての答申ということに賛成です。第2回、第3回と各委員の皆さんと審議をしてきましたけれども、内容的にも非常に多岐にわたっております。答申としてまた新たにまとめるというよりは、審議委員会の会議録をもつて答申するという考えに賛成です。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

そのほかにこの件について何かご意見ございますでしょうか。

では、今3人の委員の方からご意見をいただきました。その内容としては、第2回、第3回の会議録をもつて答申にかえていくという意見はどうかということでありましたので、各委員の皆さん、これにつきましてどうでしょうか。よろしいですか。

各委員 結構です。

委員長 それでは、今3人の委員から出た方向で答申をしていくということをお願いいたします。

それでは、議案2「平成24年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果の答申について」は、第2回、第3回の平成24年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会の会議録をもって答申するということにいたします。また、会議録につきましては、署名委員の先ほど指名しました海保委員と私で確認した後、審議委員の皆様にもごらんいただきまして、その後、答申するようにしたいと思いますのですが、この手順でよろしいでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 ありがとうございます。それでは、議案2についてもここで審議を終了いたします。

これで本日予定されていた議案に関する審議はすべて終わりましたが、全体を通して何か委員の皆様からご意見ございますでしょうか。よろしいですか。

各委員 なし。

委員長 特になしということですので、事務局のほうで何かありますでしょうか。

事務局 それでは、事務局から今後の予定についてご説明いたします。

事務局といたしましては、今後、第2回、第3回の会議録を作成いたします。そして、まず署名委員にご確認をしていただきます。その後、審議委員の皆様にもごらんいただき、審議委員長から教育委員長へ答申を行うこととなりますので、よろしくをお願いいたします。

以上でございます。

委員長 ありがとうございます。

それでは、これもちましてすべての審議を終了いたしましたので、第3回平成24年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を閉会といたします。

本日はどうもありがとうございました。

この会議の結果の記載に相違ないことを、確認する。

署名委員